

白  
し  
世  
代

群  
君  
半

群れ落ちる白い花

あ  
ら  
る


し  
く  
も  
号

成年  
コミック







つくも号



## もくじ



- 003 いたいのはところです
- 029 youth holic
- 053 ずっと君を見ていた
- 081 群れ落ちる白い花 第1話
- 105 群れ落ちる白い花 第2話
- 131 群れ落ちる白い花 第3話
- 165 描き下ろし
- 



いたいのはこちらです



お茶いれるし



あがって  
もらったら？

お客さん？

あついや

生徒さん？

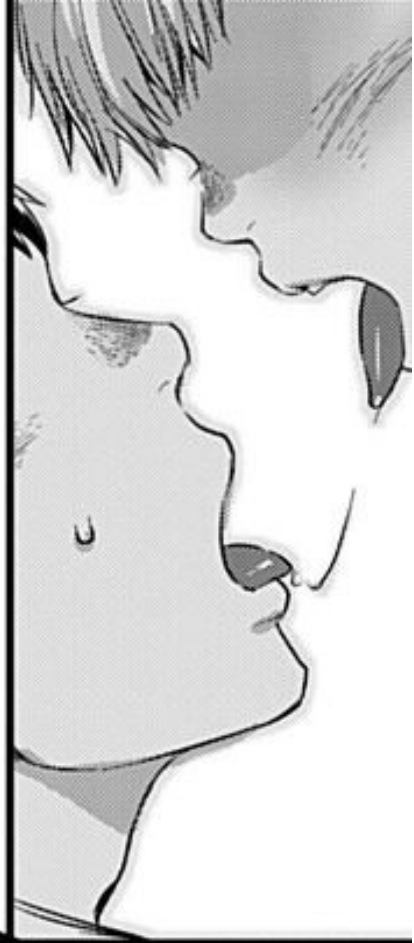
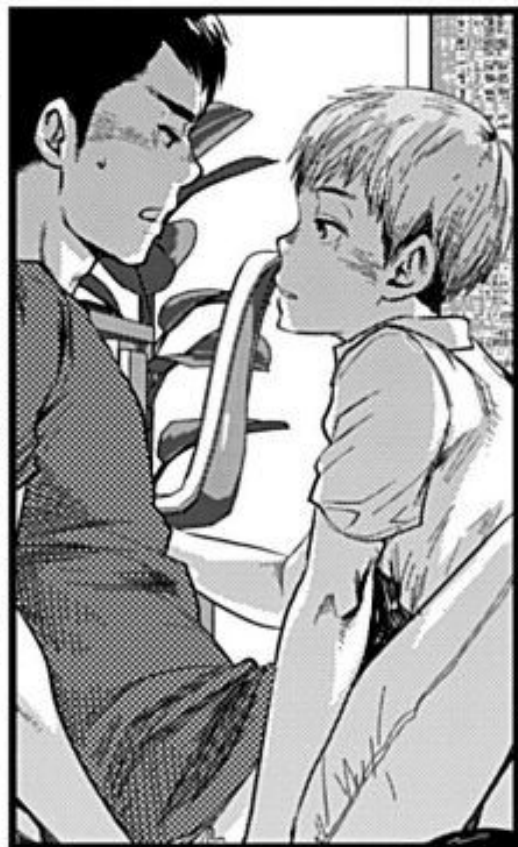


















あっ

くちゅ

ん  
くちゅ

くちゅ

あ

くちゅ



あっ

くちゅ

あっ

は...

くちゅ



あ

せんせ

気持ちいいっ

くちゅ

もっど

くちゅ

もっと  
吸って...っ

くちゅ



先生の…

僕も

僕も…



いっけい  
ん  
ん

ぬっ  
ん

ん

ん  
ん

ん

ん  
ん

いっけい  
ん

あー…っ

いっけい

あ









先生の…

は

は…

あ

気持ちいい…っ

は

あ

せんせ

あんっっ



あ

気持ちいいっ

あ

せんせっ

先生…

先生…っ









せんせつ

待…っ

あ

は

は



は

いった  
ばっか

むり…っ

だっ  
…から



あ

はっあ…っ

は

は

あ

は

んあ

ふあ…っ





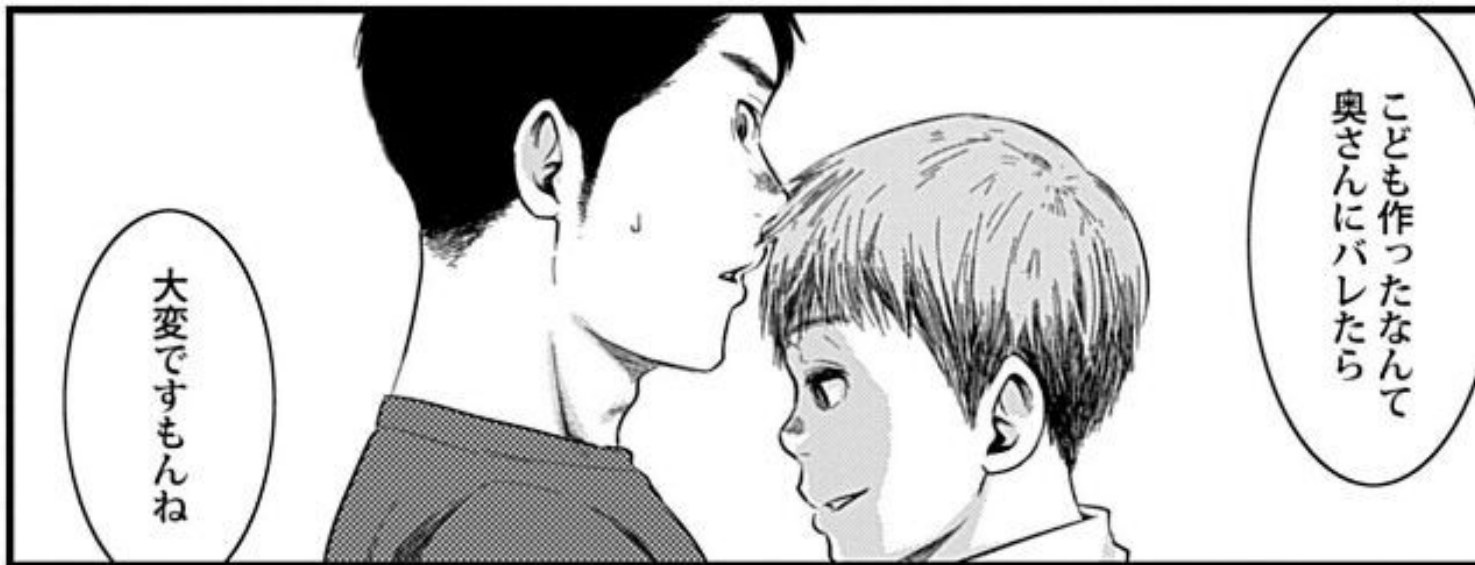
…困るんだ



こどもも出来るし

今後  
こういう風に  
家に来られると

その…







どこか  
イタイイタイ  
なのかもね



ママー

んー？

あのおにいちゃん  
ないてたよ

えー？

好きになったのは



好きになったのは

僕の方が先だったのに

END

群れ落ちる白い花



群れ落ちる白い花











住宅街の  
裏の林にある廃屋



発端はこいつ

そこが  
僕達の隠れ家

幼馴染のケイタ

あれはケイタが初めて  
スマホを持った時のこと

ねーリョーちゃん  
こんなん知ってる？



……  
ナニコレ

裸で  
何やってんの？

リョーちゃん  
知らねえの？

「オナニー」だよ  
「オナニー」！

おんあおんあー  
え挿ちいんだと



ねえ  
リョーちゃん

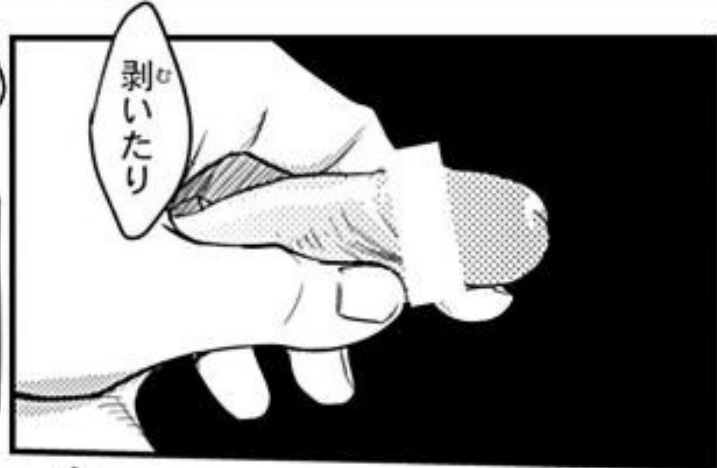
ちよっと  
やってみねえ？

ケイタが  
あんまり屈託なく笑うから



リョーちゃんは  
「カセーホーケー」って  
ヤツだね







っは

.....  
.....  
.....

わっ...

んあ...っ

男が好きってワケじゃない  
ただ僕らの頭の中は  
気持ちいいことで  
いっぱいだった



なんで

.....

おまえも  
勃ってんだよ...



お

おー...

なんか  
すげー出たね

ねえ  
リョーちゃん

これ  
見て見て



なんだソレ

ローション!

こっそり  
通販で買うの  
すげー大変  
だったんだぜー



ジャーン



ちゅっ

ケイタ…っ

それ  
やぼっ…



動画で  
見たんだけどさ

ここ  
こっやって…



先っぽをいじり続けると  
気持ちいいんだって

あ  
ちよっ



ああああ

あんっ

ニヤッ

ニヤッ

んあっ

ニヤッ

は



はっ

ちゅっ

ちゅっ

ぬっ

ぬっ

あ…あっ

あああっ



あっ

気持ちいい？

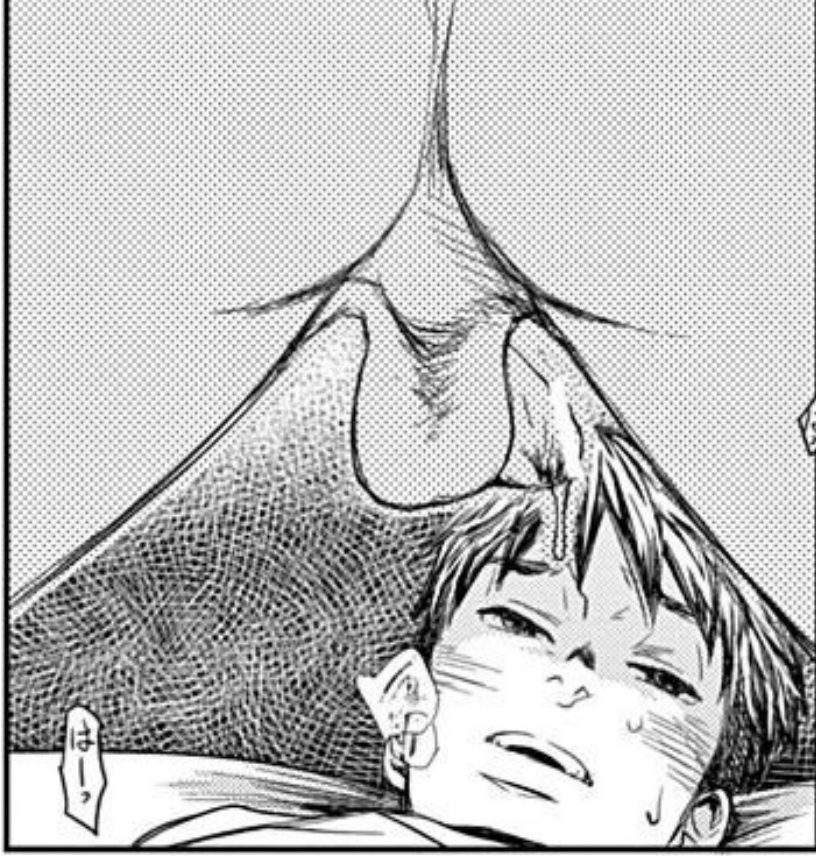
ケイ…っ  
待つ…っ

これ  
キツ…っ

はっ

リョーちゃん  
すげー声  
出てるじゃん

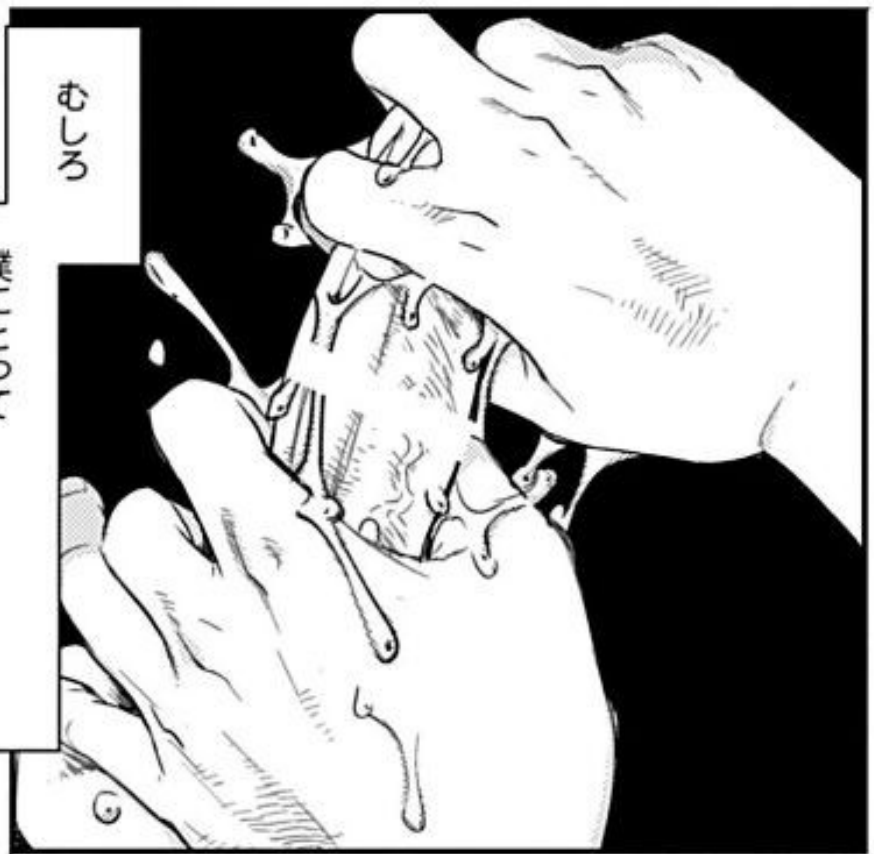
あ





むしろ

僕にとって  
ケイタと廃屋で過ごす時間は  
楽しみですらある



なのこ



なんで

なのに

なんでだろう

この  
罪悪感

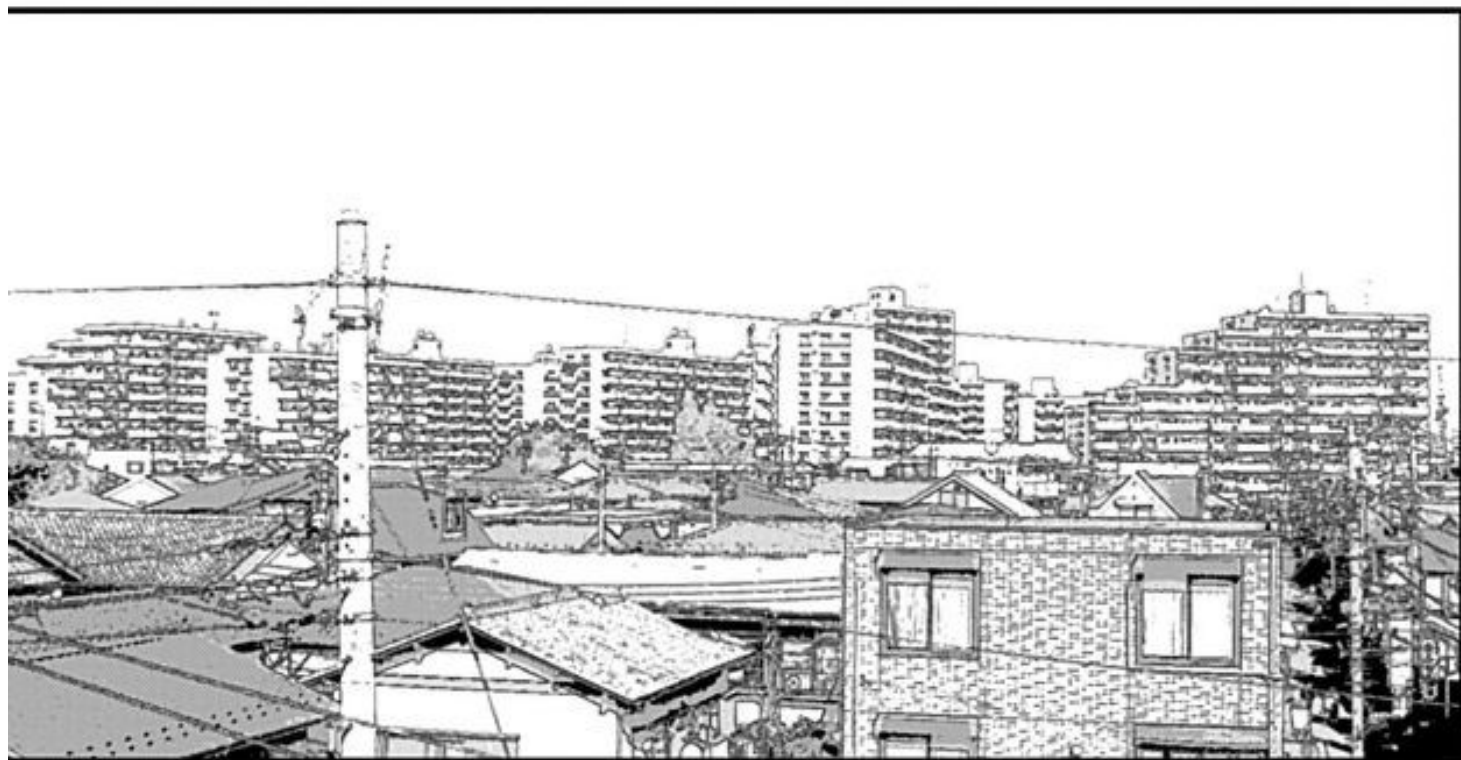
こんなに悪いことをしてる  
気持ちになるんだろう

そんじゃ  
リョーちゃん

また  
明日な

おー







男同士でもさ

ケツ使って  
出来るんだって



…何これ



えー…

じゃこっちの  
指挿れるヤツは？

…えー…

おねがいつ！



やだっつて！

なんか  
怖いし…

そもそも男同士って  
なんか変じゃん



これやってみよ

は

え？

やだ

えー  
ちよつとだけだし

ね？  
おねがいつ











ちよつとだけ  
だから

あ...

バキッ  
カッ

バキッ  
カッ



ああ

ちよつと

また  
あの罪悪感だ



ちよつと  
はっ

ちよつと

ちよつと



リョーちゃん  
ここ…？

この辺？  
…気持ちいい？

あーっ  
はっ

あーっ  
はっ

あーっ  
はっ



ああああっ

精子ずっと  
漏れてるよ…

すっごい  
声出てるし

はっ



四六時中  
こんなことして

頭の中は  
エロいことばっかり

あー…

溶けそう  
…っっ

薄暗い  
こんな廃屋で

あっ…

俺も…

すっげー  
気持ちいい  
…っ

あ





そうか

…あめ



う

う…

ううう…っ

でも



う…

う…

僕は  
自分はずっと青空あっちの側に  
いるんだと思っていた



ごめん  
リョーちゃんっ

え

なんで？

ごめん  
やっぱやだった？

でも

もう  
きつと戻れない

僕も  
ケイタも



…っ



ごめん  
大事にするから



でも俺

でもさ



ごめんね  
リョーちゃん



見当違いなことを言う  
ケイタに

何言ってるんだ  
バーカ…

何故だか  
僕は

安心してしまった

END

ずっと君を見ていた

緊張してる？

…あの…  
やっぱり俺…

大丈夫  
僕も一緒にいるから

ほら

わわわーっ

わ

わっ

ちよ

一緒に  
気持ちよくなるう

こんなこと  
なるなんて…っ





三日前の  
体育の時間

この始まりは



津田に付き合っ  
保健室連れてって  
やってくれ

っス



このクラスの  
保健委員は？

あっ  
俺です

あがわ  
阿川だな



せんせー  
津田が

どうしたー？

ボールちよつと  
ぶつかっただけなんすけど



津田は



…おかしいとは思いつつ  
いつもつい目で  
追いかけてしまう

なんだろ

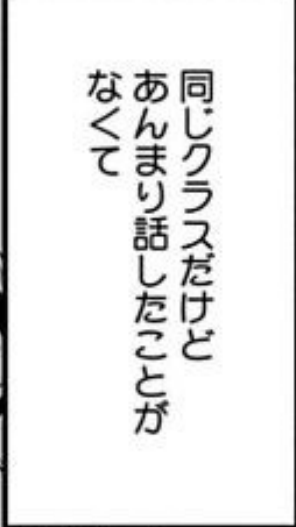
なんかむっちゃ  
いいニオイする…



でも

サラサラの  
髪だったり

その辺の女のこより  
整った横顔だったり



同じクラスだけど  
あんまり話したことが  
なくて

2-C  
阿川

2-C  
津田



…津田？



…津田

先生いないから  
横になって待っててよ



触っちゃった…

大丈夫か？



阿川さ

ずっと  
僕のこと  
見てたでしょ



…阿川





ギギギ

ギギギ

阿川



阿川

触って



ん...



?

付き合っていないよ

たまに会って  
気持ちいいこと  
するだけ



やわらかい...

熱い...

ギギ

ギギ

...じゅわん

ギギ

ギギ

っ...

津田は

付き合ってるの？  
その人と...



ねえ見て

これも

この間  
つけてもらったんだ



触りたいのに  
自分では触れなくて…

すごく  
もどかしくて

…ゾクゾクする

つき合ってもないヤツと  
そんなことするとか

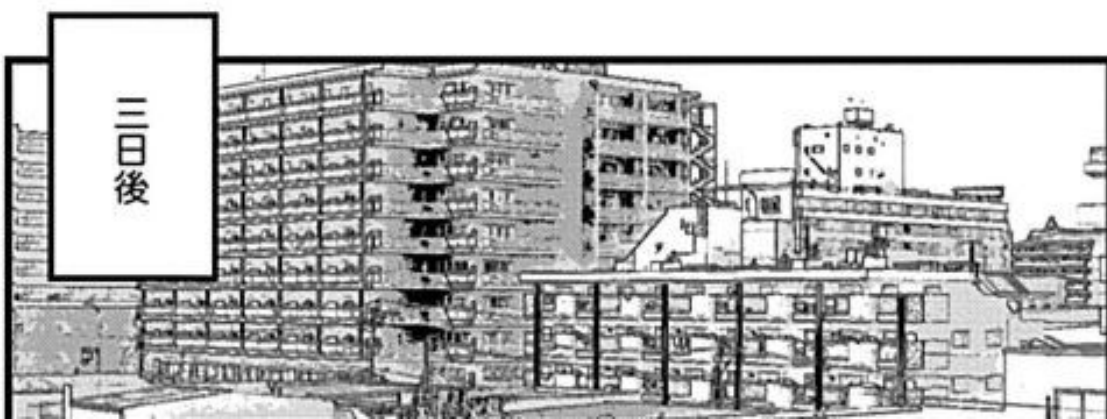
おまえ  
おかしい!?

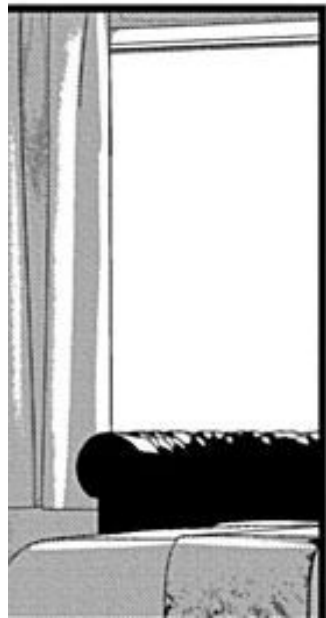
阿川

セーガ













お友達のか  
恥ずかしいところ  
見てようか

阿川くん  
しばらく  
このままで





んっっ

しゅわっ  
しゅわっ  
しゅわっ

すげ…  
あんな  
太いのが…っ

ヤバい…  
津田のこんなところ  
見てたら乳首が…

シンシンして…

せむぎが…



お利口

カチャ

あ…



んっ



ちゃんと  
射精禁止守ってた？

勝手にイってない？

カチャ  
カチャ

…ずっと  
オナニー  
我慢してました…っ

あ













んおっ

きゅん



阿川の乳首

ちゅんちゅん

はっ

はっ



あ

ピンピンで  
可愛い...

イジるたびに  
ディルドが  
ピクピク動く...

ああ...んっ



僕...

ちよっとまだ

でも...

物足りないかも...







あ 津田…  
俺なんか  
来ちゃ…っ

あ あっ  
阿川…っ

いつちや…

んあ  
ダメ…  
ダメ…っっ

あっああ

んお  
お  
…っっ

はっ



クワッ

グッ



まだ

...まだ



足りない



もっと

一緒にになりたい

もっともっと  
溶け合いたい





…僕も

僕もね

阿川のこと  
ずっと見てた



はっ

はっ



僕のこと

ずっと見てる  
阿川を見てた



きっと阿川は  
僕と同じだって

だから



阿川

もっつ  
気持ちよくなっし…

群れ落ちる白い花



群れ落ちる白い花



群れ落ちる白い花  
第1話

うわー

すごい

山が近いですねー  
先生

この辺はあの山のおかげで昔から政治や文化の中心圏から避<sup>へ</sup>遠<sup>えん</sup>の地だからね

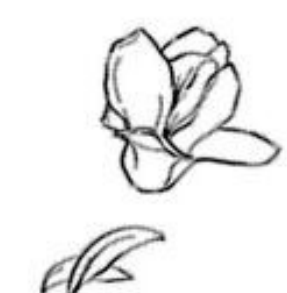
ちよつとちよつと  
高<sup>たかなわ</sup>輪<sup>りん</sup>くん  
君がそんなに  
はしゃいでちゃ  
困るよ

ちなみに今日の宿  
までどれぐらい  
なんですか？

色々面白い話が  
残ってると思うよ

もうちよつとの  
はずなんだけどね







なにぶん  
今日は夜も深い

建物も立派ですね  
年季ありそうだなあ

築は  
三百年ほど

江戸時代からと  
聞いております

古い家ですので  
不便も多いかと

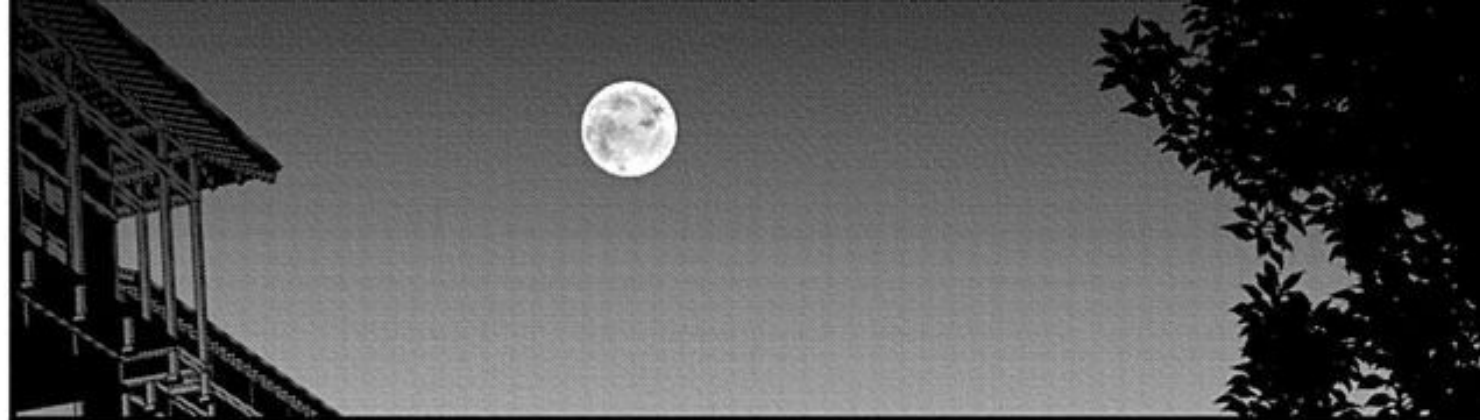
早坂より皆さんの  
お世話をしよう  
言付かっております

おのでもら  
小野寺と申します

おやすみになるのが  
いいでしょう

それでは

なにか  
ありましたら





そして

その月明かりに  
照らされる…



月明りが  
こんなには  
はつきりと…



…あか  
かりが…

蔵？

離れか…？



小野さん



皆さん  
今日は村の方へ  
話を聞きに？

ええ  
その予定です



…あそこは  
蔵です

古いものも多いですし  
危ないので  
近づかないでください



…小野寺です

あつすみません

あの庭の離れ？  
のことで…

夜打ヨウダ  
フイゴフイゴ



……

さて

そろそろ  
出発しようか



ほうじや

その婆様がの

三十年も  
経とったのによ

姿形も変わらず  
帰ってきんさった  
そうでよ

なるほどなるほど  
興味深いお話  
ですね

そのお話を伺ったのは  
どなたからですか？

ワシが五つ六つ  
ぐらいのこと  
じゃが

あれはひい婆様から  
だったかの

それはまた  
随分と昔から  
あるお話ですね





ごめんなさいねえ

年寄りには昔のこと  
大げさに言いよるけん

早坂さんのとこ  
昔村の利水りずいの顔役で  
羽振りがいい時期が  
ありんさったけん

良く思わん人等は  
口さがなく言うんだわ…

蛇のお嫁さんもらって  
家をおおきゆうしたやら  
悪いことして稼ぎんさったやら

タタリ？  
私もよう知らんけど子が丈夫に育たんとか  
女の人が短命だとか

あそこの奥さんも  
お産で亡うなりんさつとるしねえ

そりやまた  
典型的な  
異類婚姻譚だねえ



鶴女房なんかの  
アレですね

そうだね  
異形との婚姻譚は  
世界でも枚挙に暇がない

僕もさっきのお宅で  
同じような話を聞いたよ

こういう閉ざされた  
コミュニティだと族外婚が  
起源になつてるケースが  
あるかもねえ

あとは水源が豊富な  
この辺りだと  
蛇や龍との関係性だね

江戸中期辺りから  
神社の資料には早坂さんの  
名前が出てきてる  
その前後で利水に  
関わったんだらうね



崇りの話は  
どうなん  
でしょうね

さてねえ  
あるいは話の元となる  
何かがあったのかもね

その辺も含めて  
もう少し話を集めたいなあ

じゃあ僕  
こちらの方の  
お宅を

うん  
ご苦労様

ヤマギワ  
←スグソコ  
019-0319

あそうそう  
高輪くん





結構<sup>けっこう</sup>獣道で険しいらしいから  
僕は遠慮しておくけど

確かに  
こりゃあ…



村の人から  
伺ったんだけど  
その山の<sup>なか</sup>中腹に温泉  
沸いてるらしいよ



それに

また  
あの白い花…



イオウの匂い…

あった



「地元の人も  
ほとんど来ないらしいよ  
貸し切りだね」



とは言っただけど  
一応…



おっ  
す



水音…

…





#624

白い花のような...



あ



誰もいないと  
思ってたから...

ごめんっ







特にお年寄り  
崇り子だつて  
嫌がつて…



古くて  
小さな村だから…



ずっと  
昔の話です



そその  
崇りつて…?

山には  
白い蛇の姿をした  
神様がいて

ある家  
がその神様を  
嫁として  
娶った  
そうです

そのおかげで  
家は  
栄えました

でも

だんだん  
時が経って  
人は  
神様の  
ことを  
忘れて  
しまっ  
て

神様を  
祀るの  
を  
疎かに  
して  
しまっ  
ました

そのせいで  
神様は  
怒って

その家  
に  
神様の  
姿に  
似た  
子供が  
産ま  
れる  
よう  
祟っ  
たん  
です





…信じますか？

…興味深い話だけど…

それじゃ

このおは…



白蛇の嫁と崇り…

僕みたいに



……

…病気…



君のそれは  
れっきとしたと言うと  
おかしいけれど

先天性色素欠乏症しきそけつぼうしやうという  
病気なんだ



君の髪や肌は  
崇りのせいなんかじゃないよ  
ましてや誰が悪いという  
ものでもない

こういう山村では  
異質に扱われる  
ことも多いのは  
事実だけど



高輪と  
言います  
田舎者

大学で民俗学を  
勉強してるんだ



…そんなこと  
言われたの  
初めてだ…

おじさんは  
お医者さん？



いやー

そんな  
たいしたもの  
じゃ…



じゃあ先生だ



民俗学？

…  
今みたいな言い伝えや  
古いお話を勉強する  
学問だよ

胸が膨らむのは



もし

しばらく  
村にいるのなら

またお話  
聞かせてもらって  
いいですか？

あああ

もちろん！

その外観の  
せいではなく

きっと  
彼があまりに綺麗に  
笑うからだ

行かなきゃ

さよ

昼間はあまり  
出歩けないから

夜に

家の離れで

…あの

君の名前は？

透とほです

早坂の家の

ああ

せいせい——

群れ落ちる白い花  
第2話

そう

で、これが  
前に調べた島の  
民話

南の方の島？

うん

冬でも  
暖かったよ

離れは薄暗く  
湿った土の匂いがした

面白い？

うん

透の病気に  
日の光は  
良くないのだろうが…

その中であって

透は  
とても聡明な  
少年だった

元々の資質も  
あったのだろう

教育はきちんと  
受けてはいないようだったが  
理知的で



なにより

知識に  
餓えていた

「蟹の…」

とは  
こんな感じがな

ああ  
ウチの故郷の方の  
写真だね

後ろのは？

湖？



あ  
これ

高輪さん？



海だよ  
日本海

海!

見たことない!

いいなあ…

いつか

ずっと向こうまで  
水が続いてるの?

そうだよ

風は潮の匂いが  
するんだ

生き物は?  
どんなのがある?

魚とか  
イカとか…

たまに  
沖の方で  
イルカも見れるよ

イルカ!

高輪さんの育った  
海を見てみたい

透のことは  
誰にも話さないで  
いた



主の口から透の名が  
語られることはなく



離れの件での  
態度から



小野寺氏に聞くのも  
憚られた



そして

いやあ  
見事だねえ

白木蓮が  
こんなに  
群生してる  
なんてね

誰かが  
植栽したのかな

本来この種の  
開花期間は  
もっと短い  
はずだけどねえ

僕は

教授にすら  
透とのことを  
話せずにした

研究という名目で  
家の事情に深く  
立ち入りたくないという  
建前もあるが

僕は植生については  
専門外だけど

その道の人に  
見てもらったら  
面白い発見がありそうだね

そうですね

なにより

僕は  
独占したかったのだ



この美しい少年との

メラニン？

おうせ  
逢瀬を

そう



日の光の中の有害なものを防ぐメラニン色素というものがある

君の病気ではそれを生成できないんだ



そう



そうか

それで僕には太陽は良くないんだね



…その花に  
似てるね

え？

君が

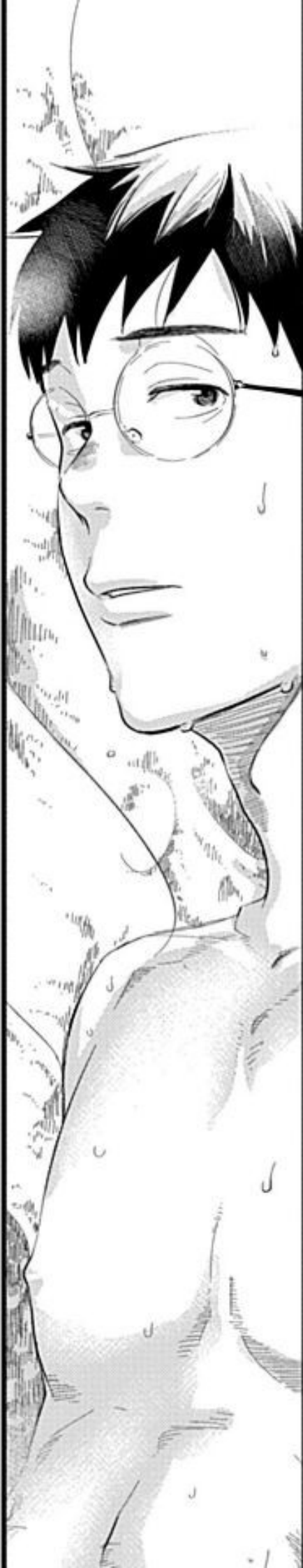


あっ  
いや

その



たたずまい  
とかがね



…花は

花は  
白くても  
平気なのね

ちやが



実際

年端もいかない少年に  
こんな気持ちを抱くことに  
罪悪感を持たないでも  
なかった

それじゃ  
僕その辺  
散歩してきますね

ああ  
気を付けてね

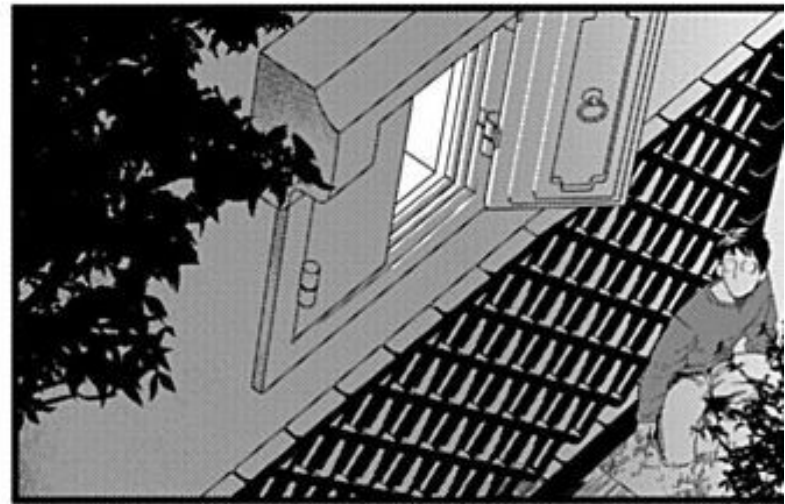


まずい  
見つかった？

お  
お

…あれは







ほら  
顔こっち向けろよ



まったく



毎回毎回  
律儀に嫌がる  
素振り見せて

普通の女より  
そそるよ  
おまえは









くくもった吐息



しじまに響く  
湿った音





そこに私は

ああっ

気のない振りして

この淫売が



いたたまれなさと  
罪悪感



早く

早くこの場を  
離れなければ



そして

ほのくら  
仄暗い興奮を  
覚えていた



ふああー…

あ…



お疲れかい？

あ先生  
すいません



あの光景が  
目に焼き付いて

朝方まで  
まんじりとも  
出来ないでいた



昨夜は

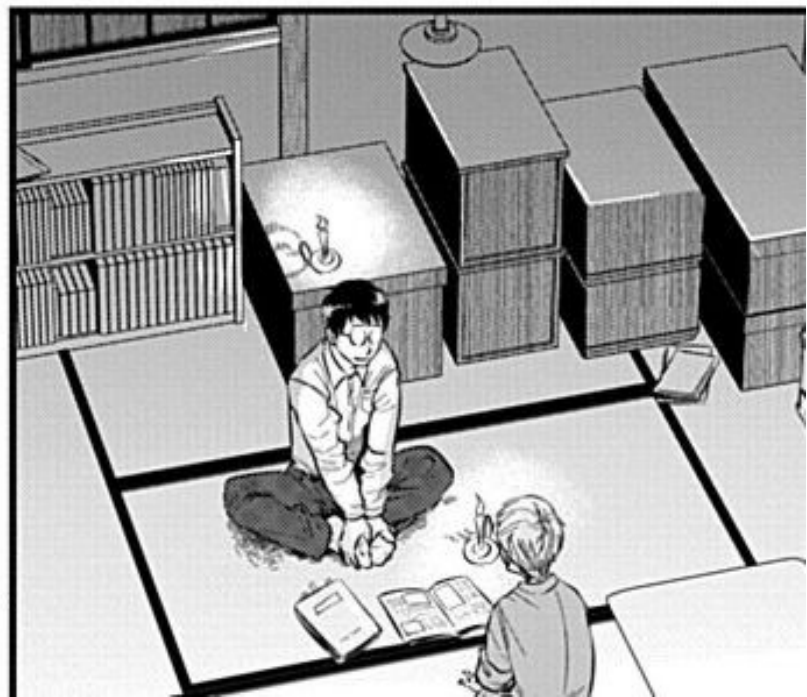


正直

透に会うのは  
気が重い



高輪さん!

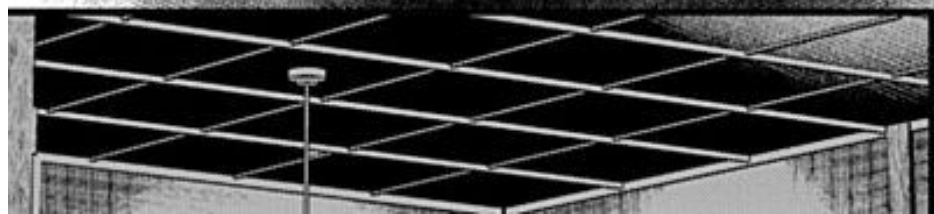




…高輪さん

見たんだね

昨日…







僕は



要らない存在だから



…っ

高輪さん…？

そんなことは  
ないよ！

君は頭もいいし  
分別もあるっ

断じて

断じて君は  
要らない人間  
なんかじゃない！

なにより

僕には君のことが  
必要なんだよ



…待て

こんな

これじゃ

あの男と同じ…





群れ落ちる白い花  
第3話

いやこりや  
随分  
集まっちゃったなあ

どっちにしても

いったん大学に戻って  
整理しないとだねえ

ここへの滞在も  
あと二、三日くらいかな

君達  
そのつもりで  
片付けといてね

はい

あのあと

二度ほど  
透のいる離れを訪れた



あの夜のことなんて  
何もなかったかのように  
振る舞う健気さが



逆に僕を苦しめた





帰る…？

あのこを  
置いて…？



お帰りの  
準備ですか？

ああ  
小野寺さん

まだもう少し  
ご厄介になるんですが

あと  
二三日中には



この男への

この気持ちは  
なんだ

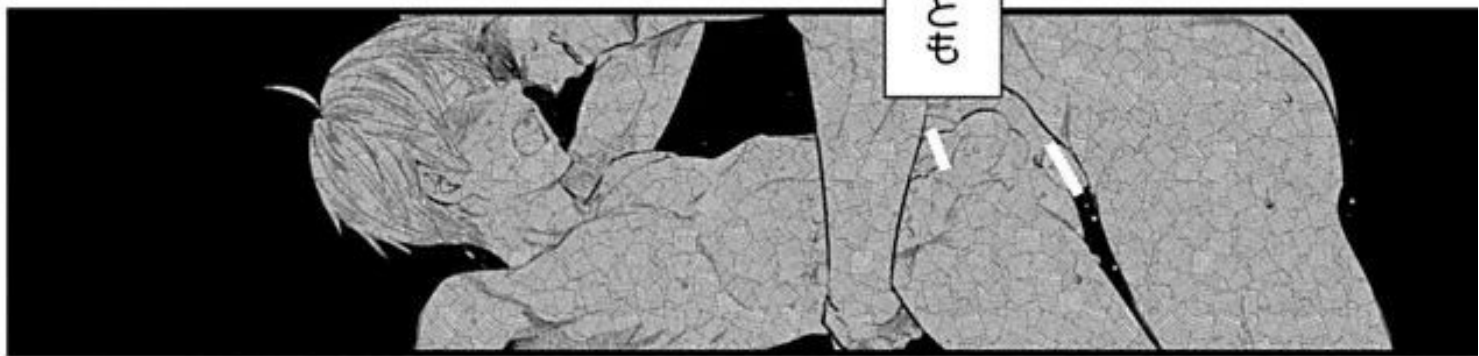


小野寺さんには  
随分お世話になって

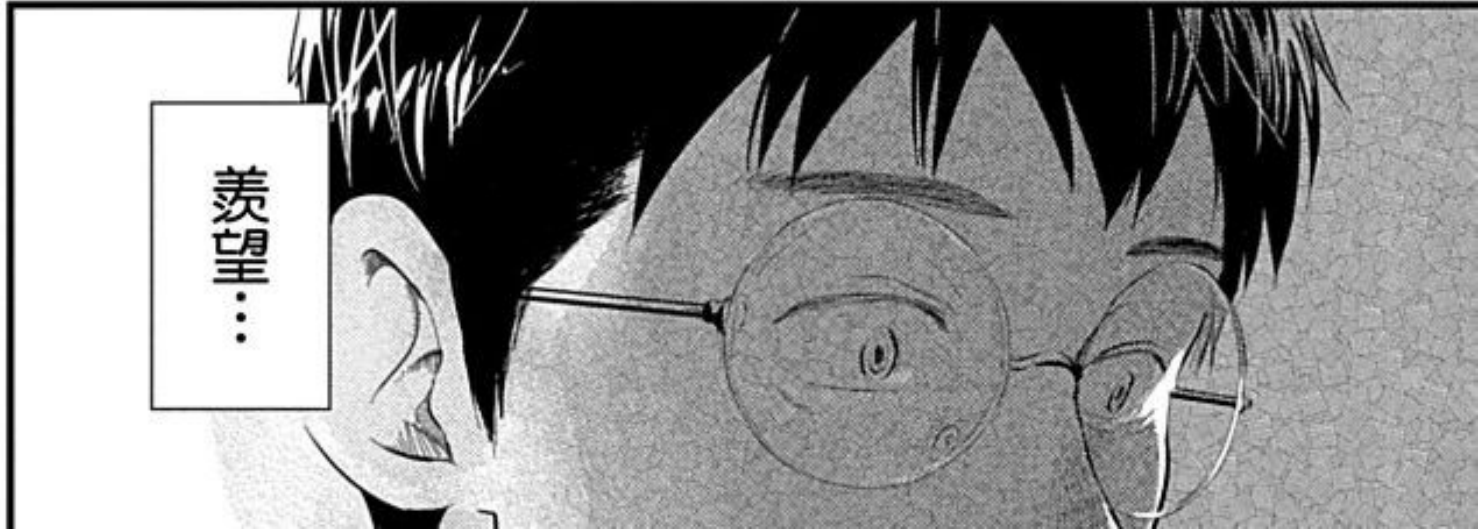
いえ  
なんのお役にも  
立てませんで



嫌悪？



それとも



羨望……



そんな  
まさか

僕は

あのこを…



…帰ることに

なったんだ…





…一回  
戻るだけだよ

またすぐに  
帰ってきて  
くれるよね



え…



…わからないんだ

…



そう  
わからないんだ

ここを去ることが  
いいことなのかどうか

君への気持ちも…

僕も  
一緒に行く

えっ

一緒に  
行きたい！

好きなんだ

高輪さんと…

いやそれは…

高輪さんのことが…







僕が

…汚れてるから？



どうしてダメなの？

僕が男だから？

こんな姿だから？

ちが…

それとも



.....



…そんなこと  
ないよ



僕には  
君が必要だって



言っ  
たら  
ろう？



僕も  
君と

離れたく  
ない…

そう

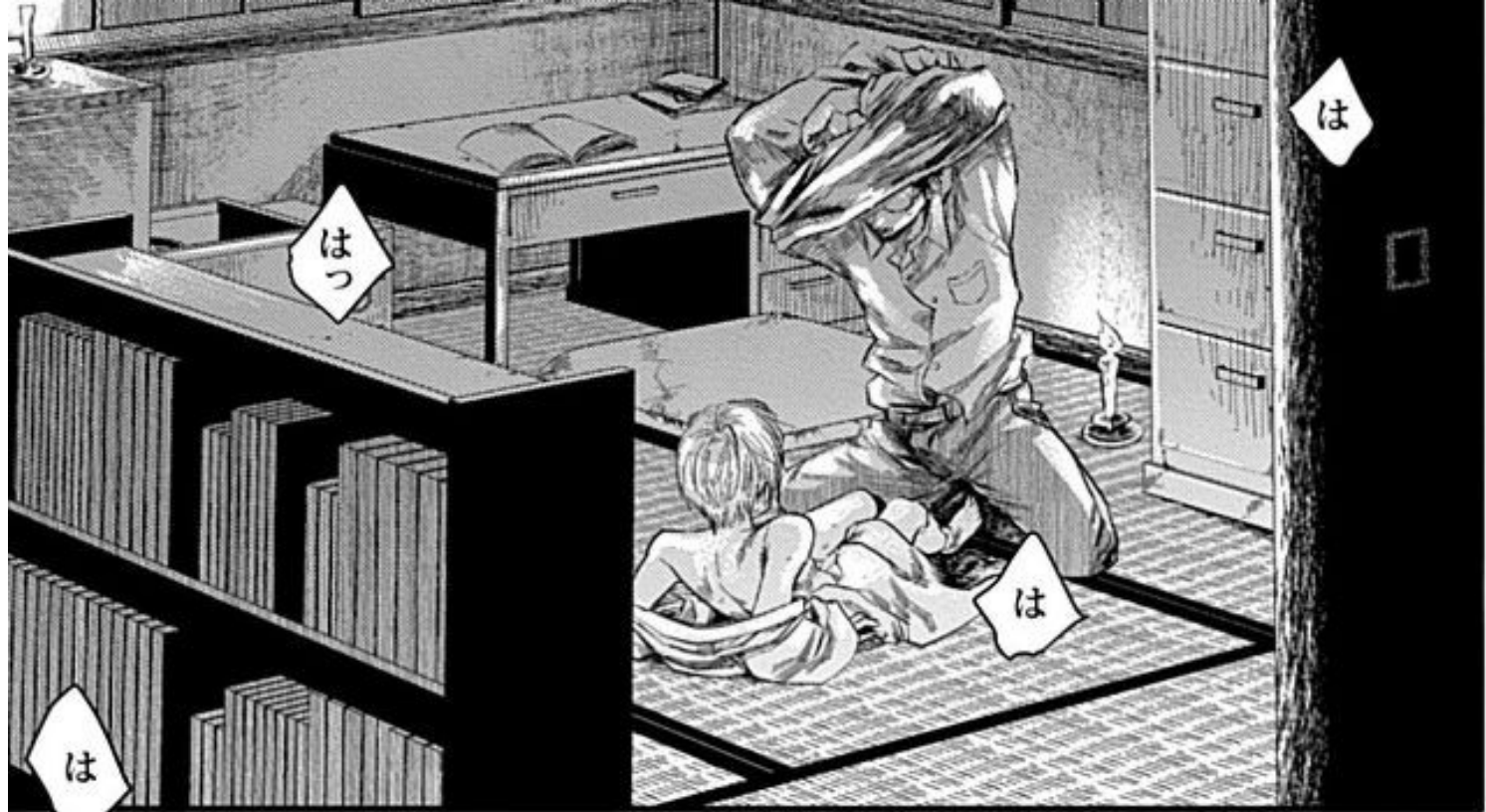


ずっと  
触れたかった

この美しい髪に

肌に





最初から  
魅入られていたのだ

あ

あああ…っ

この美しい  
少年に

…平気  
高輪さん…

嬉しい…

辛くない…？  
透くん…







もっと

高輪さんに  
気持ち良くなって  
欲しいんだ。



嬉しい

高輪さんが  
僕を  
求めてくれて



あ  
ちよっ

僕も



あ  
あー…

ぬ

あ



透く…ん…っ

は












君にも見せたいな



やっぱり  
男を啜くわえ込んでやがったか



なんとか  
君のお父さんに  
許しをもらって



一緒に  
この村の外を  
見に行こう





…っ  
こ  
これは…っ



おまえは

ちよっ  
待っ

簡単に  
他の男に股を  
広げやがって



ちよっど…

乱暴は…っ





こりゃいかん…



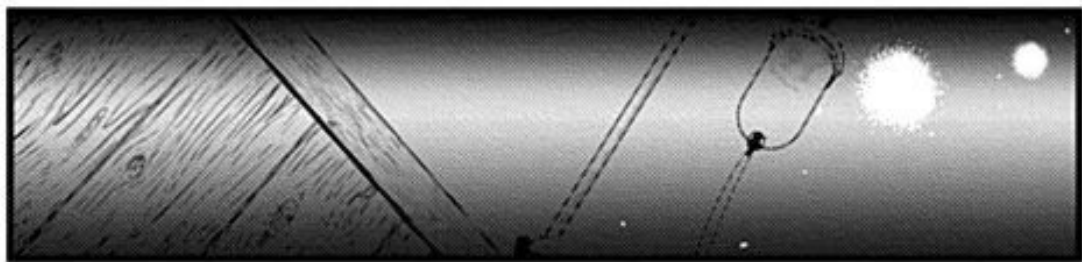
手を…っ



透くん  
コホッ



透くん  
こっちに  
コホッ





書物でいっぱい  
古い離れは

火の回りが早く

消火も虚しく  
全て崩れ落ちたという

焼け落ちた土蔵の跡から  
見つかった遺体は一人だけ

年格好  
歯の治療痕から

あの小野寺という  
男だろうとの  
ことだった

僕は周囲に必死に  
透の安否を訊ねたが

僕に突きつけられたのは

かつて死産で産まれた子以外に  
早坂氏に子はいないという事実だった





高輪さん  
大丈夫なんですか  
…あのあとずっと  
お休みされてますけど



…そういえば  
先生



先生  
まとめた資料  
こちらに置いて  
おきますね

ああ  
ありがとうございます



拝啓



うん…

何しろ  
怪我も火傷も  
酷かったからね



しばらくは  
郷里で  
療養するそうだよ

そういえば  
ついこの間  
葉書も届いたんだ

志村先生 花曇りの昨今  
皆様お変わりは  
ないでしょうか

寒風も和らぎ

こちらもようやく  
春の兆しが見えて  
参りました

その節

大変ご心配とご迷惑を  
おかけした怪我も  
経過は順調で

今は杖無しで  
歩く練習も  
できるようです

陽春のみぎり

高輪さん

杖忘れてるよ

皆様の益々のご健勝を願って



やあ  
ありがとう

日差しは  
大丈夫だったかい？



うん

これぐらいなら  
平気

追伸



今年は郷里にも

あの白い花が  
咲きました

群れ落ちる白い花



群れ落ちる白い花



農家の三男に生まれ



十二の歳には  
下男として  
遠縁の家に出された



描き下ろし

学もない  
働き口もない寒村では  
よくあることだ



体のいい口減らし

奉公先は  
昔この辺りの水利を  
担った素封家だったが



今は  
おさんどんを含め数名の

零落した旧家に  
過ぎなかった



働き方を覚えて  
数年もたった頃だろうか



屋敷の中で  
時折見知らぬ少年が  
出入りしていることに  
気付いた



それが透だ



少年はおさんどんの目を盗んでは飯を賄<sup>まわ</sup>っているようだった



あるいは見て見ぬふりをしているのか



旦那の隠し子が村の子供か



実子は死産だったと聞いたが



食べ



腹が減ってるんだらう

…ありがとう…





少年は寡黙なのか  
言葉少なに礼を言つては  
物陰に消えていった



何度か屋敷の中で見かけては  
食へ物を分けてやっていた



うん

ここなら  
好きに使つてもいいし  
…人目にもつかないし

透が住んでいるという  
離れの土蔵でのことだった



ちゃんと言葉を交わしたのは  
三度目

こんなとこに  
住んでるのか



なに？



今日は  
いいものを持ってきた

……



不意に胸騒ぎを覚えた

日の差し込まない  
薄暗い土蔵の中

白磁のように  
淡く光る肌



金平糖だ

出入りの業者が  
くれた

コンペイトウ！  
食べてみたかったんだ



え

思考が…



だんだん

湿った空気の中  
何故かお世返るような  
甘い香り…



え

あ

麻痺する



え…

やつ…

暗がりだ 赤い瞳が揺れた

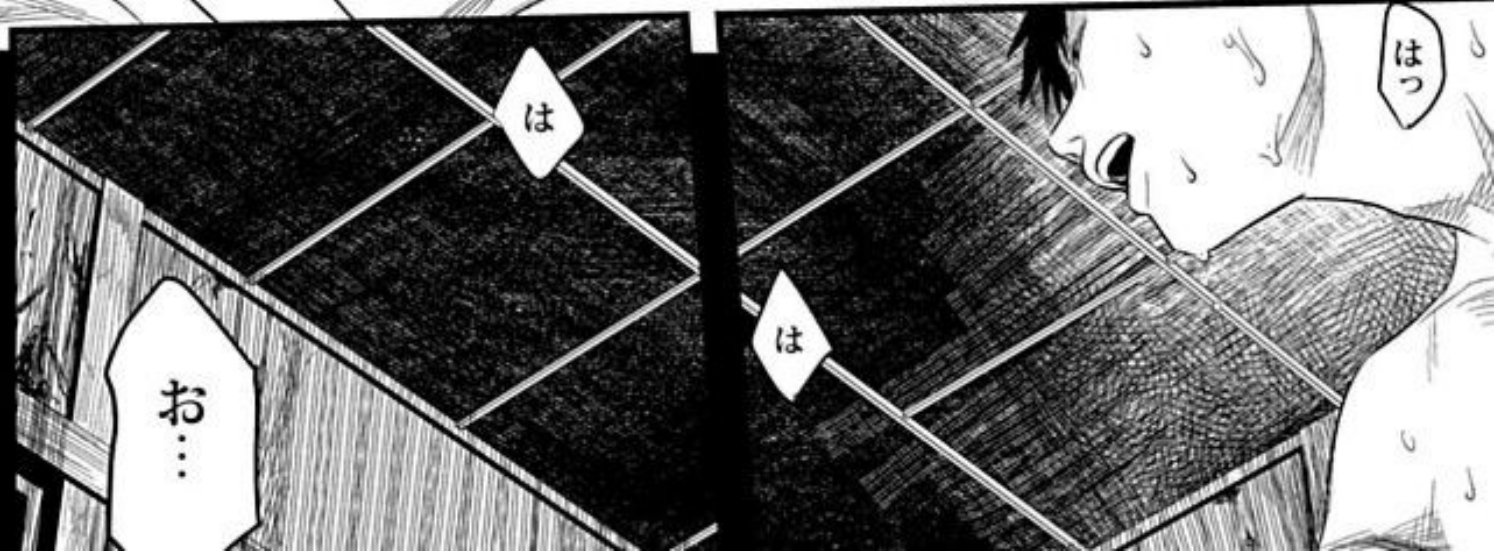
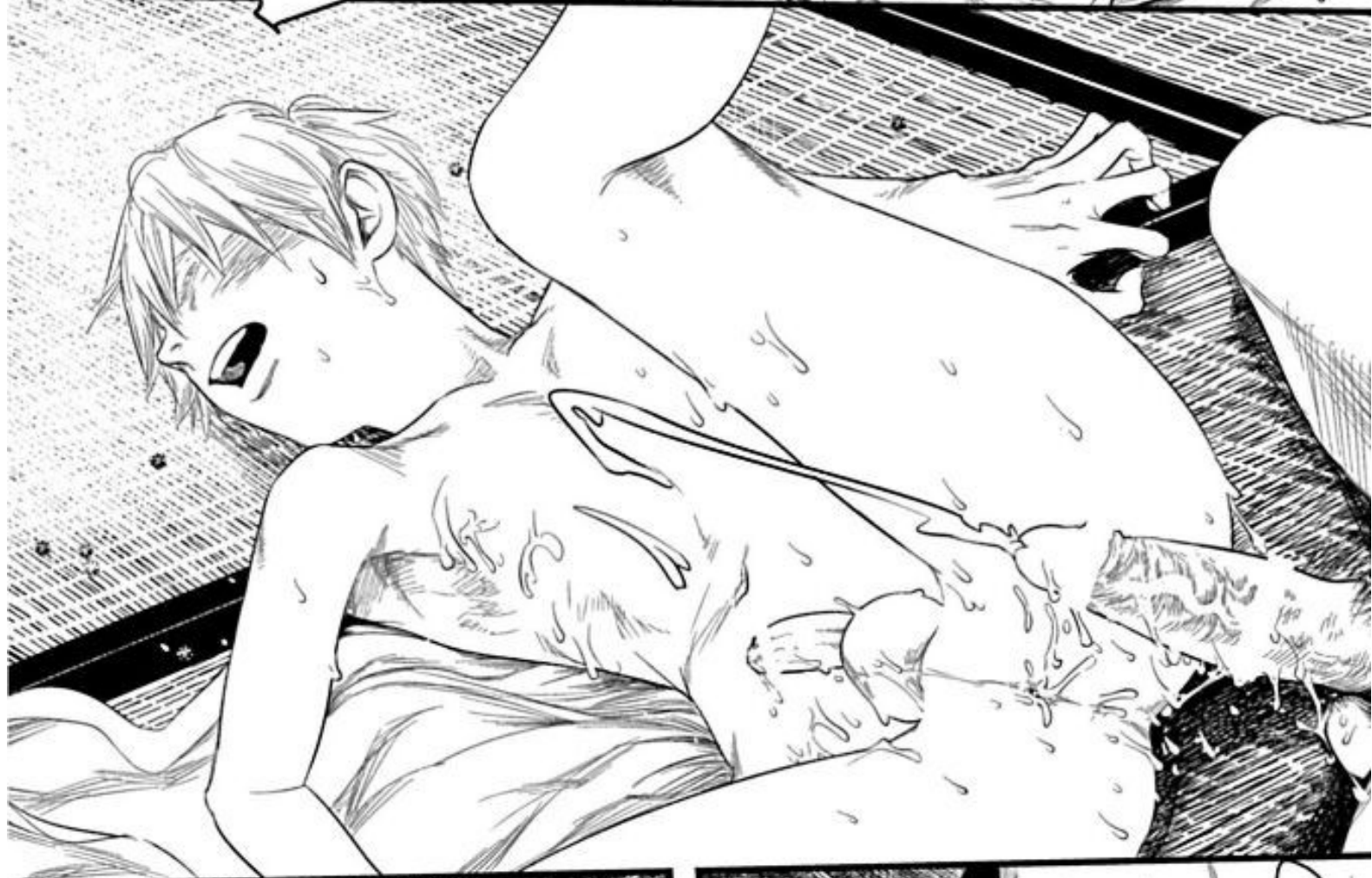




理性が



飲み込まれていく





俺じゃない…っ

おまえがっ



おまえが  
誘ったんだ…っ



我に返ってから

俺は逃げるように  
その場をあとにした



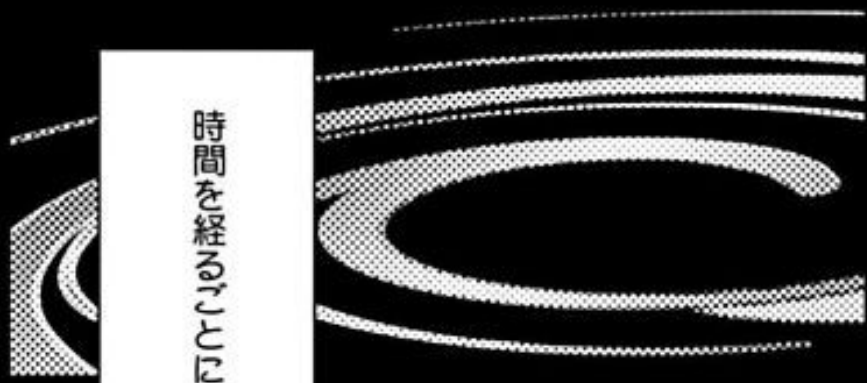
暫くは

土蔵には近づけないでいた

だが



時間を経るとして



触れたい...

こぼく  
蠱惑的な瞳

銀糸のような髪  
吸いつくようなあの肌に



触れたい

触れたい



気付けば  
俺の足は土蔵に向いていた

毎日のように





はっ

はあ…っ



もう戻れない

いや  
戻れなくてもいい

俺は

その手に  
肌の温もりを感じながら

心のどこかで  
そう思っていた

END

描き下ろし

こんには  
つくも号です。



単行本をお手に取って頂いて  
本当にありがとうございます。

今回の「群れ落ちる白い花」、

高輪さんと透君の  
ハッピーエンドのように  
終わってますが、



受け取り方や解釈によって  
いろんな終わり方になるように  
してみました。



と言うのも、以前見た映画、



ファン・アントニオ・バヨナ監督の  
「永遠のこどもたち」や  
アリ・アスター監督の  
「ミッドサマー」などを見て

考察好きオタクの私としては

無茶苦茶感銘を受けたわけで



ぜひ、「自分はこういう解釈をしたよ」  
って方はコメントなど頂けると  
嬉しいです。



最後になります、  
出版に際してご尽力くださった  
出版社の皆様、

筆の遅い私をいつも見守ってくくださる  
担当K野様、

そして、読んでくださった皆様に  
感謝を込めて。



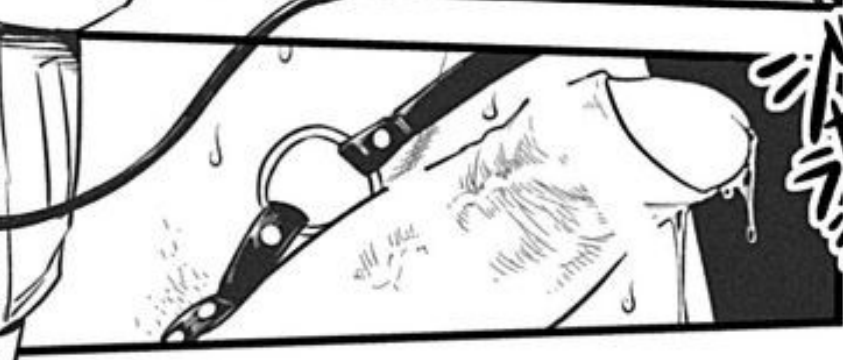
2023.6  
つくも号





群れ落ちる白い花





## 君と一緒に

DLsite限定特典  
『ずっと君を見ていた』描き下ろし



津田…

恥ずかしいよ  
この恰好…



あ

ちゅっ  
ちゅっ  
ちゅっ

やっ

津田…っ



でも  
ちんぼヌルヌルじゃん

あっ



あっ

は

すごいよ阿川

エッチな音が  
ここまで  
聞こえてくる…

あ

ちゅっ  
ちゅっ

津田…

だめっ  
出ちや…っ

出ちやう…っっ

嬉しいな

ん？

阿川とこんなこと  
できるなんて

夢みたいだ

…

最近連絡が…

阿川さん、  
お久しぶり  
です。お元気  
ですか？

長前に会ったときは  
お元気でした。



# 群れ落ちる白い花

著者:つくも号

©tsukumoGO

2023年7月15日 第1刷発行

発行者

石田恭二

発行

株式会社ブレインハウス

〒111-0041 東京都台東区元浅草2-10-11

発売

株式会社三交社

〒110-0015 東京都台東区東上野1-7-15 ヒューリック東上野一丁目ビル3F

tel.03-5826-4424 fax.03-5826-4425

<https://www.sanko-sha.com/>

カバーデザイン

河野直子 (kawanote)

印刷所

共同印刷株式会社

printed in Japan

ISBN 978-4-8155-1903-2

定価はカバーに表示してあります。

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。三交社までお送りください。

本作品はフィクションであり、実在の人物・団体・地名とは一切関係ありません。

本書の無断転載・複製・複製・上演・放送・アップロード・デジタル化を禁じます。

本書を代行業者等第三者に依頼しスキャンや電子化することは、たとえ個人でのご利用であっても著作権法上認められておりません。

本書に関するご意見・著者へのご感想はこちら。

アンケート&ご感想フォーム

→ <http://adam-comics.jp/?mode=f4>

アダムコミックス WEB サイト

<http://adam-comics.jp/>



